

21世紀へ ～海洋・資源研究の新たな取り組み～

海洋資源担当 今治美久

2000年(平成12年)2月、六代目漁業調査船「とくしま」は竣工した。

海洋の世界標準測器であるCTDをはじめとして、層数128層観測可能なADCP(多層式流向流速計)、魚群量を定量的に測定可能な科学計量魚群探知機、漁場マップ作成や海底構造物の把握に有効な手段であるサイドスキャンソナー、漁礁周辺部における魚群の状況や生態調査のためのROV(自航式水中テレビロボット)など現代の調査船に要求される最新鋭の調査・観測機器を搭載した。

30年以上継続して行っている定点海洋観測のデータ精度の向上に努めると共に長期モニタリングを継続して実施し、海洋環境の研究・解析の基礎資料としている。また、新たに海洋資源調査のためのトロール試験やソリネット調査をはじめ、漁業者からの要望に応じ深海カニ籠試験などを行いその結果を漁業者や自治体に情報提供を行っている。その他、親子海洋教室の開催や水産高校生の見学会等を行い、広く県民に海への関心と理解の向上に努めている。

21世紀へ「とくしま」は【動く研究室】として新たな役割を果たしつつある。

紀伊水道を疾走する漁業調査船とくしま



主要目; 総トン数:80トン, 主機関:ディーゼル 1200馬力
全長:32.71メートル, 幅(型):6.10メートル, 深さ(型):2.60メートル

新たな観測・試験・調査



船尾甲板での CTD 観測作業の様子



調査室での CTD 観測データ処理作業の様子

【モジャコ漁場調査】

【プランクトン調査】

【深海カニ籠試験】

【トロール試験】



巻き網採集方式によるモ
ジャコ調査



魚卵・卵稚仔やプランクト
ンの調査



カニ籠投入作業と採集され
たイバラガニモドキ



船尾甲板でのトロール網
投入作業

親子海洋教室



▲CTD 観測を見学する子供
たち



▲ 船橋内を見学する親子
採水器による水温計測実習▼



▲ 透明度観測を体験する親
子

新船見学会 ～県立水産高校生の1日～



▲見学のため乗船する水産高校生

▼機関室で真新しい機器に
興味を見せる学生たち



▲機関長から説明を受け熱心に
聞き入る水産高校生

▼研究員の説明に真剣な眼差し
で見つめる学生たち

